

1 ミリキタニの猫

(リンダ・ハッテンドーフ監督/2006年・74分)

80歳の日系アメリカ人画家は、そーと一頑固でワイルドだけど、実はおちゃめな面もあるじーさん。サクラメントに生まれて広島で育ち、2001年には、世界貿易センターが間近に見えるニューヨークの路上で、猫の絵を毎日描いて暮らしていた。なぜ猫なのか。なぜ路上で暮らすのか。ミリキタニは巨匠(グランドマスター)アーティストなのか?それとも空手チャンピオン?あるいはサムライか?過去が徐々に明らかになり、激動の生涯を、絵を通して表現しているのが分かってくる。美しさとユーモアが悲しみや喪失感と混じり合い、長年の心の傷が友情とアートによって癒される様子を映し出す。小さな奇跡が次々と起こり、見る人に希望と強く生きる力を与えてくれる。猫、アート、平和を愛する人にはこたえられない映画だ。



2 ミリキタニの記憶 新作

[短編](Masa監督/2016年・21分)

「ミリキタニの猫」以前のミリキタニを知る人の証言、写真、絵でつづられた、ミリキタニの「過去」をめぐる旅。東京にいる3人、広島の「親戚」、そしてニューヨークでは晩年を良く知る存在にインタビュー。日系人強制収容所で作られた作品の展覧会「尊厳の芸術展」でもミリキタニの絵が展示されていた。



ミリキタニの原画が見られる!

「ミリキタニの猫」のジミー・ミリキタニ展 開催

2016年10月21日(金) ~ 11月12日(土)

於:馬喰町ART+EAT(千代田区東神田1-2-11-202)

詳細はHPで → www.art-eat.com



ミリキタニの猫《特別篇》 配給・宣伝:湖畔八丁目 宣伝:スリーピン www.nekonomirikitani.com

- ① ミリキタニの猫 原題: The Cats of Mirikitani 監督/製作/撮影/編集:リンダ・ハッテンドーフ 製作/撮影: マサ・ヨシカワ 編集: 出口景子 音楽: ジョエル・グッドマン 2006年/アメリカ/74分/DCP・ブルーレイ © Lucid Dreaming, Inc.
- ② ミリキタニの記憶 監督/製作: Masa 編集: 出口景子 石田優子 杉田協士 撮影/スチール: 御木茂則 芦澤明子 音楽: SKANK/スカンク 2016年/日本/21分/DCP・ブルーレイ © masahiro yoshikawa

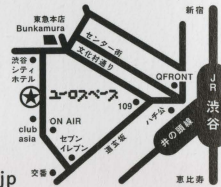
8月27日(土)より ロードショー
特別鑑賞券 1,400円(税込) 絶賛発売中!

※ 当日一般1,800円(税込)の処

★ 劇場窓口でお買い求めの方に、特製ポストカードをプレゼント(限定数)

ユーロスペース
EUROSPACE

渋谷・文化村交差点左折
tel. 03-3461-0211 www.eurospace.co.jp



ミリキタニってなあに?



プライド
猫とアートと戦争と...(そして尊厳)

ミリキタニの猫《特別篇》

《特別篇》とは2本立て

1 ミリキタニの猫

~10周年記念アンコール!!

世界の映画祭で話題をさらったあの映画が帰ってくる!

- 観客賞 トライベッカ映画祭
- ノルウェー平和映画賞 トロムソ国際映画祭
- 観客賞 パリ国際映画祭
- 作品賞 “日本映画・ある視点” 東京国際映画祭
- 観客賞 ワシントンDC 国際映画祭

2 ミリキタニの記憶

~新作の短編が同時上映!!

ミリキタニの「過去」をめぐる旅...
「尊厳の芸術展」でもミリキタニの絵が
展示されていた!



ミリキタニの猫《特別篇》 配給・宣伝:湖畔八丁目 宣伝:スリーピン www.nekonomirikitani.com

「ミリキタニの猫」人の

映画『ミリキタニの猫』は、めったにない出会いにはじまり、めったにない出来事をきっかけに、めったにない共同生活を経て、これもめったにあるとはいえないひとまずの幸福なシーンで終るドキュメンタリーだが、見終わるとその「めったにないこと」が実は過去でも現代でもどこにでも起こりえる出会いであり悲劇であり希望でもあることを見事に語っていて、その柔らかくて力強いスケールの大きさに深い敬意を抱いた。

山田太一 脚本家・作家

ミリキタニさんは日本人の誇りで、大好きな映画です。

寺島進 俳優

アーティストとして生きる信念を貫き通したミリキタニ氏の背景は日本とアメリカの戦争の歴史だった。2つの国の間でプライドを失うことなく見事な生き方が記録されている美しい映画である。

石内都 写真家

ミリキタニは、情念こそが創造を生む原動力と教える。広島原爆投下への怒りの赤色が彼の行動原理のすべて。この映画に話者の生きた言葉がなす「対話」と情念を共有する「ドキュメンタリードラマ」の魅力のすべてがある。

小林保彦 青山学院大学名誉教授



憎しみとともに生きてきたのかもしれない。それが自分を閉じ込め、苦しめてしまう。いろいろなことをあきらめてきたのかもしれない。人との出会いが、誰かを許し、なにかを忘れさせてくれることを、あらためて気づかせてくれた。憎しみを許して、またそこから生きていくのだな。きっと。



矢内原美邦 ニプロール主宰、振付家

時代に振り回されながら、ニューヨークの街角で絵を描き続けたミリキタニ。猫と故郷の空と、戦争への怒り。孤独の中、ひたむきに生きる姿に感動してボロ泣きでした。

小山田壮平 ミュージシャン

ジミーの猫は万人受けしない。愛嬌がない。寝ても起きてもない、とろんとした顔がない。鋭い視線の先に何があるのか想像すると怖い。そうか、これはジミーの目だ。見ろ見ろ忘れるなど、自分の目に焼き付けているのだ。



最相葉月 ノンフィクションライター

ミリキタニさんの晩年に起きたような素晴らしい出来事が、たとえば2001年9月以後に不当な扱いを受けたアラブ系・イスラムの人たちにも起きたらいいなと思います。そういうことも起きうるのがアメリカという国だと思いたいです。

柴田元幸 翻訳家



推薦コメント



きょう出会うかもしれない路上の人の人生が、広大な宇宙の入り口だとしたら、『ミリキタニの猫』は、わたしの世界をすっかり変えてしまった。目の前で紐解かれる〈本当の話〉に、啞然とし、涙しながら、連綿とつづく人の歴史を思う。

新井卓 写真家/ダゲレオタイプスト

聖なる河を旅しているような時間だった。この年老いた路上画家の「描きたい!」というほとばしるようなエネルギーはどこから湧き上がってくるのだろうか。その源泉を遡っているうちに、怒りをも超えた静謐な記憶の断片が重層的に露になった。

謝孝浩 文筆家・アスリート

ひさしぶりに本物の物語と出会った——。ニューヨークの街角から始まった小さな友情が、偶然に導かれて、思いがけないドラマを辿る。ミリキタニの絵がそうであるように、最初はモノクロのスケッチであったものが、いつのまにか、見事に色あざやかな作品になっていた。

クラフト・エヴィング商会/吉田篤弘・吉田浩美 作家・装幀家

ジミーの絵、部屋に飾りたいね映画を観ながら妻と喋っただけど家には二匹のネコがいるから彼らをかかわることにした



御徒町 凧 詩人

アーティストがどういうものなのか、初めて、わかった気がする。

本谷有希子 作家・劇作家



彼はまごうことなく自らを「アーティスト」だと言う。過酷にも見える人生の最中で亡くなった友のために“アーティストであり続ける”という行為が唯一の弔いの形なのだった。

森山直太郎 歌手

21世紀初頭のニューヨーク、偶然にカメラは回り始める。氷点下の路上で黙々と描き続ける、老いた日系人ホームレス画家の数奇な運命と、現在進行形の世界史が、9.11テロを境に激しく衝突し、折り重なりあい、やがて、かすかな希望が映し出されるまで。とても少人数のクルーで、個人と世界に光を投げかけ、広く深い射程を捉えきった、幾度となく再生され、いつまでも語り継がれるべき、ドキュメンタリーフィルムの孤独な傑作。

七尾旅人 シンガーソングライター

《アメリカでの映画評》

ミリキタニの人生は間違いなく悲しみに満ちているけれど、映画は希望を与えてくれる。生きる力に満ちた意志の強いミリキタニという人間と共に過ごしたあなたは、大きな贈り物もらったと思えるだろう。

シネマティカル
於トライベッカ映画祭

ジミー・ミリキタニの人間性の美しさと知性がこの映画の力だ。大きな表現は嫌いだが、映画に世界を変える力があるとしたら、この作品がその素晴らしい一例だろう。

agnesvarnum.com

